



平成19年度「推進方針」決定！！

エネルギー研究開発拠点化推進会議を開催

「エネルギー研究開発拠点化計画」を着実かつ円滑に推進するため、産業界、事業者、大学・研究機関、国、県および市町村等が参画する推進会議を開催しました。この会議では、平成19年度推進方針が決定されたほか、拠点化計画の中長期的な取組みとして、「もんじゅ」を活用した研究開発や原子力発電を支える人材の育成などについて議論されました。



挨拶する西川福井県知事

[場所]福井県若狭湾エネルギー研究センター [日時]平成18年11月12日(日)

決定された エネルギー研究開発 拠点化推進方針

人材の育成・交流

1 県内企業の技術者の技能向上研修の実施

- 原子力関連業務従事者研修等を実施
- 民間技能認定制度に適合したカリキュラム等を充実
- 事業者や元請企業等との交流会による新たな業務参入を促進



原子力関連業務従事者研修

2 県内大学の原子力・エネルギー教育体制の強化

- (新)大学、大学院における原子力分野の人材育成の取組みを支援
- (新)関西・中京圏の大学との広域連携を促進
 - ・ 教授「原子力」系の大学を各大学において専任認定
 - ・ 大学院の教員相互派遣や実験実習等の共通化
- (新)大学院に高速炉工学講座等を開設(福井大学)
- (新)放射線取扱技術等のカリキュラムの創設、機器の整備(福井工業大学、福井大学)
- (新)原子力・エネルギーの現状や課題についての市民講座を開設(福井工業大学)



委員「原子力」系の大学(18年3月)

3 小・中・高校の原子力・エネルギー教育の充実

- (新)工業高校等における原子力・エネルギー教育を実施
- (新)立地市町の原子力・エネルギー教育に対する国の支援

4 国際原子力情報・研修センター

- 海外研修生受入等による原子力関連機関等との連携促進

5 国等による海外研修生の受入れ促進

- 高速炉安全技術等をテーマとしてアジア諸国等の技術者を招聘

6 国際会議等の誘致

- (新)未来のエネルギー社会のあり方などを考える国際シンポジウムを開催(19年7月)



アジア原子力協力フォーラムの会合(18年11月)

安全・安心の確保

1 高経年化対策の強化と研究体制等の推進

- 「ふげん」を活用した経年劣化評価技術の研究
- (新)放射線化した配管等を分析・研究する施設(ホットラボ)の整備(19年度中)
- 国の委託事業を活用し、大学などが行う高経年化研究を推進

2 福南地域の安全医療システムの整備

- 緊急時における医療機関への患者搬送体制
- (新)医学士等に対する人材育成支援制度の導入
 - ・ 医師等確保制度の事業主体となる財団を設立(18年度中)
 - ・ 医学生や研修医に対する奨学金制度等を実施(19年度～)
- 熱傷等にも対応できる医療施設の具体的な規模や機能等の内容を決定(18年度中)



八咫空連(大阪)にヘリコプター機庫(18年3月)

3 陽子線がん治療を中心としたがん研究治療施設の整備

- 広く県民が利用できる陽子線がん治療施設の整備(21年度治療開始予定)
- (新)近隣福県をはじめ他県の病院とのネットワークづくりを推進



福井県陽子線がん治療センター(仮称)完成予定図

エネルギー研究開発拠点化推進会議

エネルギー研究開発拠点化計画を着実かつ円滑に推進するため、具体的な地域内容の調整、推進方針を決定を行います。

構成委員: 地元経済界、大学、研究機関、電力事業者、国、県、市

方針決定

事業報告

エネルギー研究開発拠点化推進組織

「研究開発機能の強化」、「人材の育成、交流」(産業の創出・育成)の全ての面における総合的なコーディネートと、地域企業の課題を一元的に解決できるワンストップサービスの提供を行います。

産業の創出・育成

1 産学官連携による技術移転体制の構築

- 具体的な製品開発に結びつくよう「原子力・エネルギー関連技術活用研究会」の活動を積極的に推進
- 製品開発を行う福南地域の企業等を支援
- 国等の研究費支援制度の活用による新たな製品開発を支援



技術コーディネータによる企業訪問(17年11月～)

2 原子力発電所の資源を活用した新産業の創出

- 「海洋資源・生物資源活用分科会」の取組みを積極的に推進
- 温排水利用による養殖研究等の成果を活かした共同研究を推進



高産工業団地(高浜町)への企業誘致(18年10月)

3 企業誘致の推進

- 企業誘致施策の見直しを実施し、優良企業の誘致を促進
- 県、市町、事業者が緊密な連携のもと、福南地域を中心に企業誘致活動を展開

エネルギー研究開発拠点化計画 推進方針 <平成19年度>

研究開発機能の強化

1 高速増殖炉研究開発センター

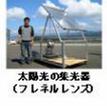
- 「もんじゅ」の発電用プラントとしての信頼性実証
- (新)原子炉内の構造物の健全性を確認できる検査技術など、高速増殖炉の実用化の研究開発に着手
- (新)「もんじゅ」の多様化利用を目指し、水素製造・利用などの技術開発に関する研究会を設置

2 原子炉廃止措置研究開発センター(仮称)

- 「ふげん」を利用した廃止措置技術の高度化と体系化を推進
- 県内企業の廃止措置に関する技術習得の実施
- 国内外の研究機関との技術協力を促進

3 若狭湾エネルギー研究センターの新たな役割

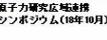
- (新)地域密着型の研究機関として、放射線利用や新エネルギーへの応用化・応用研究を推進
 - ・ 加速器による放射性医薬品半導体の製造技術の開発
 - ・ 太陽光の集光による超高温を利用した水素製造技術の開発
- 県内外の大学や企業等に対する科学機器の利用促進



太陽光集光器(フレネルレンズ) 科学機器研修

4 関西・中京圏を含めた県内外の大学や研究機関との連携の促進

- (新)県内外の大学や研究機関との共同研究者促進
 - ・ 共同研究や教育の充実を図るため、新たな協議会を設置
 - ・ 共同研究への支援制度を創設
 - ・ 新たな研究施設や宿泊施設に必要な機器等の調査
- (新)素材の改良、減価等を行う電子線照射施設の整備



原子力発電広域連携シンポジウム(18年10月)

*センターの名称については、廃止措置に係る手続が終了後に決定する予定

<http://www.werc.or.jp/topics/suishinkaigi.html>
ホームページでは拡大してご覧いただけます。

原子力を中心としたエネルギーの総合的な研究開発拠点地域

OJT研修を実施中

実施場所: 美浜発電所、高浜発電所、大飯発電所、
敦賀発電所、ふげん発電所、もんじゅ

エネルギー研究開発拠点化計画(「人材育成・交流」)の一環として、企業の技術力アップを図るため、県内企業の社員を、関西電力、日本原子力発電、日本原子力研究開発機構の元請企業7社に派遣する現場実務研修(OJT)を行っています。

研修生は、現場作業責任者として必要な作業管理、安全管理、品質管理等の知識・技能を身につけるため、意欲的に実際の発電所現場作業に取り組んでいます。



大飯発電所でのOJT研修

OJT研修生(中)が電源系統の作業員(左)の点検作業のチェック方法について元請企業の作業責任者(右)から指導を受けているところです。

科学機器利用研修を実施中

県内の企業の方々にエネ研の施設をご利用いただくため、科学機器の使い方の研修を行っています。本年度は電子顕微鏡(倍率は約2万倍)や線光電子分光による化学結合状態分析の研修を予定しています。企業の希望を伺いながら、他の機器の研修も検討していますので、研修内容などについては、技術支援・相談チーム(黒瀬、佐谷)までお問い合わせください。



走査型電子顕微鏡(SEM)の操作研修(12月5日)
各受講者が観察物を持ち寄り、その試料化の方法や顕微鏡の操作方法などの指導を受けました。

eラーニングシステムのご案内

エネ研のホームページで走査型電子顕微鏡(SEM)と電子プローブマイクロアナライザー(EPMA)の操作方法を、機器操作の初心者の方を対象に、アニメーションの形でわかりやすく説明しています。

ご利用にはパスワードの申請が必要です。

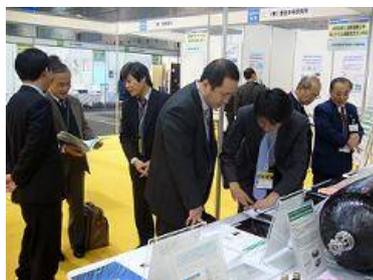
<http://www.werc.or.jp/elearning/elearning.html>

「放射線利用による新たなものづくり」

平成18年11月22日(水)13:00~16:40
福井県生活学習館ユニーアイふくい1階学習室

(財)放射線利用振興協会、(財)ふくい産業支援センターと共同で未来技術創造セミナーを開催。約80名の方々の参加があり、新素材の開発や植物の品種改良における放射線の可能性等について報告されました。

未来技術創造セミナー



「知財ビジネスマッチングフェア2006」

平成18年11月30日(木)~12月1日(金)
インテックス大阪 1号館(大阪市)

当財団と(財)ふくい産業支援センターが共同で、大阪の「知財ビジネスマッチングフェア」に出展し、「ふくい未来技術創造ネットワーク推進事業」について、多くの企業の皆様に紹介しました。